

共同利用・共同研究拠点一覧

平成29年4月1日現在

【認定拠点数】

	分野	合計	備考
国立大学	理学・工学系	34	
	医学・生物学系	28	
	人文・社会学系	10	・部分拠点1含む
	小計	72	・27大学72拠点(部分拠点1含む)70研究機関
公立大学	理学・工学系	2	
	医学・生物学系	3	
	人文・社会学系	1	
	小計	6	・4大学6拠点6研究機関
私立大学	理学・工学系	5	・再認定1拠点含む
	医学・生物学系	6	
	人文・社会学系	11	・再認定7拠点含む
	小計	22	・20大学22拠点22研究機関
ネットワーク	理学・工学系	4	・11大学18研究機関
	医学・生物学系	1	・3大学3研究機関
	人文・社会学系	0	
	小計	5	・13大学5ネットワーク型拠点21研究機関
合計		105	・53大学105拠点119研究機関

【認定拠点】

(国立大学)

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	認定期間	共同利用・共同研究拠点の概要
北海道大学 遺伝子病制御研究所	細菌やウイルスの持続性感染により発生する感染症の先端的研究拠点	村上 正晃	医学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 感染症を中心とし、関連する微生物感染、それに対する宿主応答としての免疫・炎症という局面から発生機構の解明をさらに進め、新たな治療や予防に結びつく基礎研究の推進を目指す。関連学術コミュニティの研究者との共同利用・共同研究を推進する拠点を形成し、公的研究機関として研究基盤の整備・充実を図ることは、感染症や癌の制圧を目指した研究を効果的に推進するために必要である。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 感染症研究のみならず、関連する免疫や炎症の研究領域と連携して全国的なネットワークの構築をさらに拡大し、研究成果や研究情報を共有することで、感染症をはじめ、周辺の学術コミュニティの相乗的な発展、さらには新しい融合研究の進展が期待される。</p>
北海道大学 触媒科学研究所	触媒科学研究拠点	朝倉 清高	触媒科学 サステナブル触媒工学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 持続可能社会の実現という喫緊の課題を解決するには、革新的触媒開発と実用化が求められている。そこで、多様な異分野研究を取り込み、国内外の研究者との共同研究を通じて、革新触媒の開発と実用化に必要な触媒科学研究拠点構築を目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 触媒科学の公募型共同研究の実施、組織間連携研究の推進、基礎から実用化までの幅広い共同研究体制構築、情報発信型国際会議や人材交流によるグローバル拠点形成、知の集約と発信などを行う。その結果、触媒科学研究を深化・発展させ、革新触媒を開発・実用化することで、持続可能社会の実現へ貢献する。</p>
北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター	人獣共通感染症研究拠点	鈴木 定彦	人獣共通感染症学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 人獣共通感染症の克服に向け、病原体の生態、病原性、ゲノム解析等の基盤的研究を国内外の研究者コミュニティと共同で実施する。さらに、本拠点を基軸として、喫緊の課題である感染症研究の次世代を担う国内外の人材育成と国内外における感染症発生に対応できる体制の組織化を推進する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 国内最大規模のBSL-3動物実験・研究施設、最先端のゲノム・情報解析システム等を共同利用に供し、人獣共通感染症の診断・予防・治療に関する基礎・応用研究を推進する。また、人獣共通感染症の国際研究拠点として、国内3大学(東京大学、大阪大学、長崎大学)の感染症研究拠点と連携し、国際社会における感染症対策と人材育成に貢献する。</p>
北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター	スラブ・ユーラシア地域研究にかかわる拠点	仙石 学	地域研究(人文・社会系)	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 スラブ・ユーラシア(旧ソ連・東欧)地域に関する総合的研究を行い、この分野の研究に従事する全国の研究者の利用に供することを目的とする。ロシア、シベリア・極東、中央ユーラシア、東欧、地域比較の5研究部門を置き、人文・社会科学の諸分野にまたがる全国的・国際的共同研究を行う。当該分野で世界有数規模の蔵書を有する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 国内外のスラブ・ユーラシアに関わる研究活動のハブとなる。国内的には全国の関連研究者を結ぶ共同研究の支援・発展及び次世代研究者の育成に力を注ぎ、対外的にはスラブ・ユーラシア地域における先端的な研究調査を幅広く実施する。日本のスラブ・ユーラシア研究の対外発信力を強化し、国際関連学会とのより緊密な共同研究を遂行する。</p>
北海道大学 低温科学研究所	低温科学研究拠点	江淵 直人	低温科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 寒冷圏および低温条件下における科学現象の基礎と応用に関する共同研究を展開し、研究者コミュニティの発展に貢献する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 低温科学に関する公募型の共同研究を通じて、全国の関連研究分野の研究者の参加による分野横断・分野融合型プロジェクト研究を推進し、次世代を担う革新的な研究として展開させる。</p>

帯広畜産大学 原虫病研究センター	原虫病制圧に向けた国際的共同研究拠点	玄 学南	寄生虫学 衛生動物学 応用獣医学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 我が国で唯一の家畜原虫病に関する研究拠点として、大学、OIEなどの国際機関ならびに関連省庁との研究連携により、人獣共通感染症としての原虫病および媒介節足動物の制圧と、家畜生産性向上による蛋白質資源の確保に努め、原虫病に関する研究を国際的に牽引することで、我が国は勿論、世界人類の健康福祉に学術貢献する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 原虫病の制圧により人類の健康福祉に寄与するとともに、地球規模課題の食料安全保障に学術貢献するため、アジア初のOIE コラボレーティングセンターである当センターが、以下の研究を牽引する 1)原虫病の診断、予防、治療に関する先端研究の推進 2)原虫病と媒介節足動物の制圧および監視体制構築による国際貢献 3)原虫病および媒介節足動物に関する研究者および専門家の育成</p>
東北大学 加齢医学研究所	加齢医学研究拠点	川島 隆太	加齢制御学 腫瘍制御学 脳科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 本拠点では、生命の誕生から発達、成熟、老化、死に至る加齢の基本的メカニズムを解明し、得られた研究成果を応用して加齢に伴う認知症などの脳・神経疾患や難治がんなどの加齢疾患の克服を目指す。さらに、先端的予防・診断・治療法や革新的医療機器の開発を行い、超高齢社会における健康長寿の実現に向けて、加齢医学の中核的研究センターとして先導的な国内外の共同研究を展開する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 モデル動物を用いた加齢研究領域、加齢・発生分化・生体防御の基礎的研究領域、腫瘍制御研究領域、脳の発達・加齢研究領域、革新的医療機器開発の、五本柱の共同利用・共同研究を推進する。グローバル化、人材養成機能の強化、新分野創成、異分野融合研究の観点から、一層の機能強化を行う。これにより、スマートエイジング社会の実現に貢献し、世界に新しい高齢社会のあり方を提示する。</p>
東北大学 金属材料研究所	材料科学共同利用・共同研究拠点	高梨 弘毅	材料科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 材料科学分野における金属を中心とした広範な物質・材料を対象とする国際的な中核研究拠点として、材料研究基盤・施設の利用提供を通じ、分野融合による材料科学の新しい学術研究領域の開拓および本分野を牽引する国際的人材の育成を先導し、日本の物質・材料創製の研究力強化の促進を目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 特色ある世界最先端の大型研究施設の共同利用への提供、国内拠点との連携強化及び国際的な人材交流を通じ、新物質の創製、新機能の創出を目指す材料科学共同研究を推進する。これにより、物理・化学・材料科学コミュニティが期待する学術将来計画の実現を図るとともに、先端的な研究成果に基づく日本の素材産業の活性化と持続可能な社会の構築に寄与する。</p>
東北大学 電気通信研究所	情報通信共同研究拠点	大野 英男	情報通信	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 人と人との円滑なコミュニケーションのみならず、人間と機械の調和あるインタフェースまでを包括した「人間性豊かなコミュニケーション」の実現を目指した学理並びにその応用の研究を推進することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 最先端の研究基盤を活用し、研究所外の研究者コミュニティとの密接な連携による、「人間性豊かなコミュニケーション」実現へ向けた先導的な研究を推進すると共に、大学附置研究所としての特長を生かし多様かつ高度な人材育成や先端技術の技術移転・実用化などを実施する。また、情報通信分野の我が国の大学で唯一の共同利用・共同研究拠点として、開かれた公募に基づき本研究所において実施する共同プロジェクト研究を主軸とした活動を推進し、多数の学会を含む広い研究者コミュニティに貢献する。</p>
東北大学 電子光理学研究センター	電子光理学研究拠点	濱 広幸	原子核物理学 放射化学 加速器科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 特徴ある電子加速器群からの電子光ビームを国内外の研究者に共同利用に供する。GeVクラス電子光ビームによる原子核物理等の極限物質階層科学、放射性同位元素製造による放射化学・核化学、新たな電子光ビーム開発による加速器科学の研究分野を牽引する。また大学附置加速器の機動性を活かして新研究領域の開拓を目指すとともに人材育成を推進する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 大学附置最大規模の電子シンクロトロンからの得られる国内唯一のGeVクラス電子光ビームを原子核物理学および関連分野の共同研究に供し、その発展に貢献する。国内最大級電子ビームパワーの線形加速器によるユニークな放射性同位元素製造を行い、放射化学のみならず放射性同位体を利用する様々な研究分野の進展するに寄与する。また電子加速器の高度化を推進し、関連する加速器科学に貢献する。</p>
東北大学 流体科学研究所	流体科学国際研究教育拠点	大林 茂	流体科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 流体科学分野における国際研究教育拠点として、流体科学を基盤とした幅広い工学分野における異分野融合・新分野創成を先導し、流体計測技術の高度教育研修事業によって若手人材育成を行うこと通じて、世界のさまざまな研究者が集う国際頭脳循環ハブを形成するとともに、安全・安心・健康な社会を実現することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 世界最高性能の衝撃波関連施設等の共用設備を供することにより、環境・エネルギー、健康・福祉・医療、人・物質マルチスケールモビリティ、基盤流体科学の4分野の公募共同研究、国際共同研究プロジェクトと、流体計測高度教育研修事業を推進する。これにより、流体科学を基盤とした幅広い工学分野の発展と社会が直面する諸問題の解決に貢献する。</p>

筑波大学 遺伝子実験センター	形質転換植物デザイン研究拠点	江面 浩	植物遺伝子研究 バイオテクノロジー	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 植物遺伝子に関する基礎科学の成果利用を促進する「形質転換植物に関する総合研究拠点」として、形質転換植物に関する学術研究を実施し、国際共同研究も含め実用化に繋げる応用研究推進を目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 形質転換先端技術・評価施設及び遺伝資源を活用し、植物重要形質発現に関わる遺伝子群の機能理解に関する国内外の共同研究及び実用化候補作物の作出につながる民間企業との共同研究を行う。 遺伝子組換え植物の社会受容に関わる情報発信活動及び遺伝資源に関するリスク評価・管理技術・知財管理・データベース等のノウハウについて、国内外の研究者コミュニティとの共有化を図るための拠点として機能する。</p>
筑波大学 計算科学研究センター	先端学際計算科学 共同研究拠点	梅村 雅之	計算科学 計算機科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 本拠点は、世界的にも特色・実績のある学際的な高性能計算機開発とその科学的応用・共同利用の実績を踏まえ、科学諸分野と計算科学の学際的な共同研究及びその基盤となる大規模計算基盤の共同利用による共同研究により、最先端の学際計算科学を開拓・推進し、全国的な学術研究に寄与することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 計算機科学と科学諸分野の協働により高性能計算機を開発し、これを共同利用に供することにより、最先端の計算科学の研究を推進するとともに、異分野間融合を加速する。これにより、国際的な計算科学の拠点を創出し、次世代の高性能計算技術の研究開発を主導するとともに、これからの計算科学に必要な学際性を持つ人材を育成し、計算科学の飛躍的な発展に貢献する。</p>
群馬大学 生体調節研究所	内分泌・代謝学 共同研究拠点	泉 哲郎	内分泌学 代謝学 生活習慣病学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 内分泌・代謝学分野における国内唯一の基礎医学研究所として、創出基盤技術・リソースを共同利用に供し、臨床医学研究者を含む当該領域の研究者コミュニティが要望する、メタボリック症候群など社会的要請の高い内分泌・代謝疾患の共同研究課題を遂行し、高水準の研究成果を世界に向けて発信することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 疾患モデル生物、代謝機能解析、エピジェネティクス、ゲノム編集、イメージング技術など、基礎医学研究機関ならではの独自性のある解析技術・研究リソースを共同利用に供し、世界的に注目度の高い当該領域の研究を推進するとともに、次代をリードする研究者育成に貢献し、国際水準の共同研究創出拠点として機能する。</p>
千葉大学 環境リモートセンシング研究センター	環境リモートセンシング研究拠点	安岡 善文	リモートセンシング 環境動態解析	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 地球環境観測のために必須の技術であるリモートセンシングの分野において日本が国際的な優位性を保つため、本拠点が日本およびアジアの中核研究機関としての役割を果たし、リモートセンシング研究および衛星データを用いた環境研究を進展させることを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 センサ開発、衛星データからの環境情報抽出、リモートセンシングの社会実装に関する共同研究を推進するとともに、衛星データ、地上観測データ、地理データを共同利用に供することにより、リモートセンシングの学術分野を進展させ、地球環境・地域環境の解明およびリモートセンシングの社会での利用拡大に貢献する。</p>
千葉大学 真菌学研究センター	真菌感染症研究拠点	笹川 千尋	医真菌学 臨床感染症学 感染免疫学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 超高齢社会などを背景にして全世界で大きな脅威となっている真菌感染症をはじめとする難治性感染症に関して、世界水準の基礎および臨床研究を推進する研究拠点として関連研究者を先導する。また、世界レベルの病原真菌リソース保存機関として、世界の関連コミュニティ研究者による研究活動に大きく貢献する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 国内唯一の病原真菌研究を専門とする研究機関として、また唯一の真菌症専門外来を実施する施設として、医真菌学・臨床感染症学における研究推進および人材育成に大きく貢献する。また、病原微生物学・感染免疫学など異分野領域との融合研究を積極的に実施し、広く難治性感染症の克服に寄与する。</p>
東京大学 医科学研究所	基礎・応用医学の推進と先端医療 の実現を目指した医科学共同研究拠点	村上 善則	先端医療学 がん・ゲノム医学 感染・免疫学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 知的・人的集積拠点の共同利用化のために組織的な展開を図り、がんや感染症等の医科学的諸問題の解決を目的に、本拠点において広範な研究領域の国内外の研究者と公募による共同研究を実施・推進し、医科学研究水準の更なる向上と本共同研究を通じた若手人材育成および国際研究連携を目指す。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 最高水準の研究施設、附属病院、データベース等を広く開放し、広範に渡る専門分野の研究者が受入教員となって共同研究を推進することにより、拠点のハブ的役割を果たすと同時に、感染症・免疫、がん、ゲノム医学等の幅広い基礎生命科学研究分野の推進と附属病院を活用したトランスレーショナルリサーチ(TR)の発展へ寄与する。</p>

東京大学 宇宙線研究所	宇宙線研究拠点	梶田 隆章	宇宙線 素粒子 宇宙物理	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 宇宙線物理学における世界の中核研究機関として、素粒子及び宇宙物理のフロンティアを拡大するとともに、大型の光学望遠鏡やX線衛星では観測できない天体の深部における物理現象を、高エネルギー宇宙線・ニュートリノ・重力波などによって解明する研究を、共同利用・共同研究体制により行うことを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 最高エネルギー宇宙線、重力波、高エネルギーガンマ線、ニュートリノ、銀河宇宙線、暗黒物質、観測的宇宙論、及び関連する理論研究など様々な宇宙線関連の研究を推進する。これらの研究活動において国際的に主導的な役割を担い、国内外の研究者と共に日本と世界の宇宙線物理学の発展に継続的に貢献する。</p>
東京大学 空間情報科学研究センター	空間情報科学研究拠点	小口 高	空間情報科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 空間情報科学研究センターは、実世界で展開される多様な事象を時空間的な視点から分析する空間情報科学に関する研究を行う。また、研究用の空間データ基盤を整備・提供して研究者の利用に供することで、1)空間情報科学の創生、深化、普及、2)研究用空間データ基盤の整備、3)国際的な産官学共同研究の推進を効果的に達成する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 空間データを利用する共同研究を円滑に進める独自開発システム「JoRAS」を運用し、日本全国および世界の研究者と、文理の多様な分野に関する共同研究を推進する。さらにイベント等を通じて研究者・開発者の相互交流・知識融合を図り、世界的な科学技術コミュニティを発展させ、地域活性化・新産業創生等を効果的に支援する。</p>
東京大学 地震研究所	地震・火山科学の共同利用・共同研究拠点	小原 一成	固体地球科学 自然災害科学 地震工学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 地震・火山噴火現象の科学的解明と、これらに起因する災害の軽減方策の探究を使命とし、地震・火山に関連する固体地球科学、災害軽減に関する理工学、及び地震・火山噴火予測のための観測研究分野において、国際的に卓越した研究拠点としての位置づけをさらに強化し、世界をリードする先端的研究を推進する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 課題公募型と参加者公募型の共同研究を実施し、保有する施設・設備・資料データ等を全国の関連研究者に提供する。また、災害の軽減に貢献するための地震・火山観測研究計画の企画立案・調整・実施を全国連携で行う上で中核的役割を果たすとともに、国内外からの客員教員の受入・国際共同研究を推進し、国際・社会貢献に資する。</p>
東京大学 社会科学研究所 附属社会調査・データアーカイブ 研究センター	社会調査・データアーカイブ共同利用・共同研究拠点	大澤 眞理	社会学 経済学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 社会科学研究のための共同利用インフラであるデータアーカイブを拡充し、質の高い社会調査データを新たに創出すると同時に、共同研究の拡大を通して若手・女性研究者を育成し、大学等での社会調査データを用いた教育を支援することで、実証的な社会科学研究の発展に貢献することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 世界的にも認知されているデータアーカイブの利用促進・国際化のためにデータの電子化フォーマットの国際標準化を進めると同時に、データアーカイブに寄託されている社会調査データを利用した共同研究を質的・量的に拡大させ、社会調査データを用いた大学教育の支援を行う。これらの活動を通じて、現代日本の社会科学的研究に必要な情報基盤を整備して実証的な社会科学研究の発展に寄与する。</p>
東京大学 史料編纂所	日本史史料の研究資源化に関する研究拠点	山家 浩樹	日本史	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 国内外の日本関係史料につき、各地の研究者と共同調査・研究を行ってその研究資源化を進め、同時に共同利用化を推進して、日本史研究の一層の質の向上を目指す。地域の史料に詳しい研究者と全国で史料蒐集を行う本研究所とが共同調査・研究を行うことで、情報を集約し、史料の保存と活用を図ることが可能となる。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 公募によって大学に加え博物館・資料館等とも連携し、地域における人材育成に貢献する。文理・異分野連携を進め、海外の研究者との共同により日本史学の国際的拠点の役割を担う。基本的インフラとなったデータベース等を発展させ、研究資源化された史料を史料情報と共にデジタル画像として提供する。研究成果をシンポジウム・出版物・展示などの形で社会に還元する。</p>
東京大学 素粒子物理国際研究センター	最高エネルギー素粒子物理学研究拠点	浅井 祥仁	素粒子物理学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 素粒子物理学分野において最高エネルギー領域での国際共同実験を遂行する我が国の中心拠点として、CERNにおけるLHC加速器を用いたATLAS実験やPSIIにおけるMEG実験などを先導して、標準理論を超える新粒子や新現象の発見などを目指し、国内外の研究者と共に当該分野の進展が拓く新たな学術パラダイムの構築を目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 CERNにおける世界最高エネルギーのLHC加速器を用いたATLAS国際共同実験やPSIIにおける世界最高強度のミュオンビームを用いたMEG国際共同実験を共同利用に供することにより、素粒子物理学の進展に寄与すると同時に、我が国の大学院生や若手研究者から当該分野の国際的指導者やエキスパートを育てることに寄与する。</p>

東京大学 大気海洋研究所	大気海洋研究拠点	津田 敦	地球惑星科学 環境学 水産学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 地球環境や生命の進化、気候変動に重要な役割を有する海洋と大気の基礎的研究を推進し、これらを統合し、人類と生命圏にとって重要な課題解決につながる研究を展開する。また、世界の大気海洋科学を先導する拠点として、国内外の共同利用・共同研究を推進し、次世代を担う海洋・大気・地球生命圏に関する豊かな科学的知識を備えた人材の育成を行う。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 大気海洋科学に関する研究拠点として、学術研究船、臨海実験施設、最先端分析機器、気候モデルを用いた共同研究を柱として、広く大気、海洋科学コミュニティを発展させていくとともに、これらの課題を国際的に展開し、大気海洋研究の国際的なハブ研究機関としての機能を強化していくことで、人類が抱える地球環境科学の課題を解明していく。</p>
東京大学 物性研究所	物性科学研究拠点	瀧川 仁	物理学 化学 材料科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 新しい物質、ナノ構造や測定手法の開発に基づく実験的研究と、新たな概念や計算手法の提案に基づく理論的研究の連携により、物性科学分野の基礎研究を推進する。高度な研究設備を開発・整備し、国内外の研究者の多様な発想に基づく共同利用・共同研究を展開することによって、物性科学のフロンティアを拡大する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 強磁場物性、中性子科学、光科学、超高圧物性、計算物質科学などにおける世界最先端の中・大型実験設備を開発し、共同利用に提供することによって、未踏の研究分野を開拓する。なお、強磁場物性分野においては、相補的な役割を果たす大阪大学大学院理学研究科附属先端強磁場科学研究センターと連携し、共同研究の可能性を広げる。また、先端的共同センターの遂行や、研究会、国際シンポジウムの開催を通じて、次世代研究者の育成とコミュニティの発展に貢献する。</p>
東京医科歯科大学 難治疾患研究所	難治疾患共同研究拠点	石野 史敏	医学 基礎生物学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 難治疾患の病因・病態形成機構解明、診断・予防・治療法開発の基盤形成に資する共同利用・共同研究拠点構築を目的とする。研究所の所有する「疾患バイオリソース」、「疾患モデル動物」、「疾患オミックス」に加え、ヒトゲノム情報を共同研究に有効に活用できるシステムを提供することで研究者コミュニティの要望に応える。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 最先端の解析機器類や科学技術、戦略的に作出する疾患研究リソースなどを共同利用に供することで、難治疾患研究を強力にサポートする。基礎医学・生物学研究から診断・予防・治療法開発までを含めた国内外の共同研究を推進し、難治疾患の診断・予防、治療法の開発などを通じて医療イノベーション創出へ貢献する。</p>
東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所	アジア・アフリカの言語文化に関する国際的研究拠点	飯塚 正人	言語学 文化人類学 地域研究分野	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 言語学・文化人類学・地域研究の3分野における、また3分野が連携して研究を進める国際的な共同研究拠点として、人類の7割を超える人々が暮らすアジア・アフリカ世界に関する新たな認識の枠組みと価値の創出を先導し、この地域の多様な言語・文化のあり方をモデルに、未来の多元的世界の発展可能性を追求する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 海外研究拠点をも活用して、アジア・アフリカの言語多様性の記録に資する共同研究、イスラームやアジア・アフリカの諸問題を正確に理解するための共同研究を推進する。これにより、狭い地域の枠組みを超えた超域的・学際的な研究者コミュニティを創出し、言語多様性や少数派の危機に代表される現代的諸問題の解決に貢献する。</p>
東京工業大学 フロンティア材料研究所	先端無機材料共同研究拠点	神谷 利夫	材料工学 応用物理学・工学基礎 建築学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 先端無機材料共同研究拠点は、セラミックスを含む先端無機材料に関する学理およびその応用に関して世界を先導する研究を推進し、社会に役立つ画期的な材料を創出し、応用を通じて社会に貢献するとともに、当該分野の学術研究の発展に貢献することを目的とする。このために拠点のさらなる機能強化を図る。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 全国ならびに世界に開かれた共同研究拠点として、組織の枠を超えて国内外の研究者コミュニティとの共同研究を実施し、異分野からの発想も取り込み、先端無機材料に関する新たな研究領域を開拓する先進的な成果を世界に向けて発信するとともに、共同研究を通じて関連コミュニティの人材育成に貢献する。</p>
一橋大学 経済研究所	「日本及び世界経済の高度実証分析」拠点	小塩 隆士	応用計量経済学 マクロ経済学 金融・公共経済学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 日本の経済学分野における実証分析の拠点として、経済社会に関する世界でも傑出したデータベースを整備し、これに魅せられた世界の研究者が参集する研究拠点を構築する。内外の研究者と共同でデータ分析の基礎となる理論と優れた統計分析手法に基づいた実証研究を推進し、精度の高い制度設計を行うことを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 政府統計ミクロデータや、マーケティングデータ等社会的に重要な情報を有する様々なデータを収集・整備し共同研究の場を内外に提供し、日本における研究水準の向上を図る。また、大学院生や産官学との連携により人材育成を行うと共に、開発途上国や新興市場等の諸外国や国内経済問題に関し、実証分析に基づく制度設計・政策提言を行う。</p>

新潟大学 脳研究所	脳神経病理資源活用の疾患病態共同研究拠点	那波 宏之	神経病理学 ヒト脳科学 分子病理学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 本研究所に蓄積されてきた世界有数規模の脳神経病理標本資源と最先端の脳機能画像解析技術を基に、アルツハイマー病等の脳神経疾患に関する脳病理・病態解析、早期診断技術開発、進行抑制治療に向けた橋渡し等の課題を先進的に研究し、その成果を発信するわが国唯一の共同利用・共同研究拠点として、世界をリードする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 わが国を代表するヒト脳神経病理標本資源、およびモデル動物資源、さらに臨床応用に向けた橋渡し研究の基盤等を活用して、国内外の研究者と共同研究を展開することにより、難治性脳神経疾患の克服に向けて、疾患の病態解明、早期画像診断法の確立、新規の進行抑制治療法の開発等の効果が期待される。</p>
金沢大学 がん進展制御研究所	がんの転移・薬剤耐性に関わる先導的 共同研究拠点	平尾 敦	腫瘍学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 がんの中でも死亡率の高い「転移と薬剤耐性」に焦点を当てた本邦の中核的研究施設として高い研究水準を保っている。共同利用・共同研究拠点として当該領域の先導的な共同研究を推進することにより、転移と薬剤耐性に代表される「がんの悪性化進展」の分子機構の解明及びそれを克服する新たな治療戦略開発に貢献することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 「がん微小環境」及び「がん幹細胞」研究を中心に据えて、「先進がんモデル共同研究センター」にて先進的ながんモデルを開発する。それらを用いた研究により先端的かつ独創的な共同研究資源を創出し、革新的基礎研究および治療を目指した応用研究を幅広く展開することにより、がんの悪性化進展研究推進に大きく貢献する。</p>
金沢大学 環日本海域環境研究センター	越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点	長尾 誠也	環境解析学 環境保全学 環境創成学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 有害物質の汚染発生源を持たない能登半島は、環日本海域の中でも、東アジアの越境汚染に伴う環境変動を最も鋭敏に反映する地域である。本拠点では能登地域において、人為的原因による越境汚染を大気―海洋―陸域の相互作用による統合環境下で観測・解明・評価する先進的調査研究を推進することにより「統合環境学」を創出し、「能登モデル」として世界に発信する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 能登地域の実験フィールドと国際共同観測ネットワークを広く開放し、東アジア由来の越境汚染物質の動態解明、大気―海洋―陸域間を統合した解析モデルの確立及びヒトの健康・生態系への影響評価と将来予測について共同調査・共同研究を展開する。これにより、国内外の環境施策への貢献等、有害物質の越境汚染による国際環境問題の解決に寄与する。</p>
名古屋大学 宇宙地球環境研究所	宇宙地球環境研究拠点	草野 完也	数物系科学(地球惑星科学、物理学、天文学) 複合新領域(環境学)	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 環境問題が拡大し、情報化社会が進化する中、太陽活動の気候影響や宇宙嵐、頻発する極端気象などの包括的な研究の必要性が急速に増している。当拠点は、地球・太陽・宇宙を1つのシステムとして捉え、そこに生じる多様な現象のメカニズムや相互関係の解明を推進して、人類の直面する地球環境問題の解決と宇宙にひろがる人類社会の発展に貢献することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 2015年に新設された本拠点では3つの研究センターを設置し、これを中心として宇宙太陽地球システムの共同利用・共同研究を推進する。これにより、太陽活動による地球環境変動、宇宙天気予測、極端気象などの地球環境と宇宙利用に関わる課題を総合的に解決する。さらに、宇宙科学と地球科学の融合による新たな科学分野の創成や革新的な観測技術の開発が期待される。</p>
名古屋大学 未来材料・システム研究所	革新的省エネルギーのための材料とシステム研究拠点	興戸 正純	電子デバイス工学 好環境材料工学 計測制御・情報通信システム工学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 革新的省エネルギー(エネルギーの創出・変換、蓄積、伝送、消費の高度化・超効率化)を実現するため、先端的な材料・デバイス等の要素技術から社会実装を目指すシステム技術までを一貫して俯瞰し、これを学内外・国内外の研究者の共同利用・共同研究によって推進することで、環境調和型持続可能社会の実現に寄与することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 世界最高レベルの結晶成長の研究実績、デバイス分野のイノベーション達成に不可欠な世界最先端の高度計測技術、革新的省エネルギーに関する材料・システムの多様な研究資産を背景に、窒化ガリウム等による次世代パワーデバイスの開発、新しいエネルギー材料やエネルギーシステムの開発研究により省エネルギー分野におけるイノベーションを創出する。</p>
京都大学 ウイルス・再生医科学研究所	ウイルス感染症・生命科学先端融合的 共同研究拠点	開 祐司	ウイルス学 実験病理学 分子生物学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 ウイルス感染症に対処するために生命科学に裏付けられた遺伝子から細胞・個体レベルに至る先端融合的研究を推進することが強く求められている。本研究所で築き上げられてきたウイルス生命科学の技術・知識・設備を基に、多様な共同研究を推進することで我が国のウイルス研究の飛躍的な発展に寄与することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 学内・学外委員によって構成される運営委員会のもと、「①霊長類P3感染実験」、「②マウスP3感染実験」、「③遺伝子・細胞レベルのウイルス・生命科学研究所」の3テーマについて、研究課題を全国公募し研究者コミュニティの要望を踏まえ共同利用・共同研究を実施する。 個体レベルの感染実験が可能なサルおよびマウスのP3感染実験施設及びウイルス・生命科学に関する研究手法や研究環境、設備、成果の蓄積を共同利用に供することにより、ウイルス感染研究及びその基盤となる生命科学の推進と人材育成に寄与する。</p>

京都大学 エネルギー理工学研究所	ゼロエミッションエネルギー研究拠点	岸本 泰明	エネルギー科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 エネルギー・環境・資源問題克服に不可欠な先進エネルギーとしてのゼロエミッションエネルギー(ZE)分野の共同利用・共同研究拠点として、多様なエネルギー関連分野別研究をZEの視点で融合する研究を主導、学術研究の進展を促すと併に、それを担う研究者の教育・養成を通じ、エネルギー・環境・資源問題の解決に取り組むことを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 世界的にも特色ある大型装置・先端研究設備群を、本研究所の分野融合的研究環境の下で共同利用に供することにより、多様なエネルギー分野の融合的基礎研究を推進する。これにより、基礎研究に裏打ちされたイノベーションを創成、同時にZE分野の学理の深化・発展に寄与すると併に、エネルギー・環境・資源問題の解決に貢献する。</p>
京都大学 化学研究所	化学関連分野の深化・連携を軸とする先端・学際研究拠点	時任 宣博	化学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 本拠点は、化学関連分野の研究者コミュニティの意向を踏まえ、国内外の研究者との連携に基づいて同分野の共同利用・共同研究を推進して学際領域を開拓し、国際的ハブ環境も提供することを目的とする。化学研究所の基礎研究の力を活かして学際領域を開拓することは、学術的発展のみならず新規産業創成にもつながり、必要不可欠である。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 本拠点では、拠点が設定する分野に即した課題、拠点外研究者からの提案課題、施設・機器利用型課題、国内外の連携を促進する課題について、共同研究を効率よく展開する。この拠点活動は、化学関連分野の基盤的研究の深化と成果の社会還元、未踏学際分野の開拓、国内外学術ネットワークの充実、国際的視野を持つ若手研究者の育成をもたらす。</p>
京都大学 基礎物理学研究所	理論物理学研究拠点	青木 慎也	理論物理学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 理論物理学の全ての分野を網羅する研究所である利点を生かし、国内外の研究者と所員が共に理論物理学の最先端の研究テーマについて共同研究を行うことにより、日本の理論物理学の発展に主導的な役割を果たすことを目的とする。同時に、多くの優れた外国人研究者を受け入れて国際的な共同利用・共同研究拠点としての役割も担う。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 学内外の研究者からなる共同利用運営委員会のもとに、国内ならびに国外のコミュニティに研究課題を公募し、若手研究者育成や分野創出のための計画、スーパーコンピュータを活用したプログラムを実施する。また世界の第一線の研究者が参加する中長期の滞在型プログラムを実施し、国際共同研究を推進する。これにより、コミュニティの学問的発展や研究交流に貢献し、我が国の基礎物理学全体の発展を支える。</p>
京都大学 経済研究所	先端経済理論の国際的共同研究拠点	溝端 佐登史	理論経済学 経済政策	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 経済研究所の強みである先端経済理論を中核とし、これまでの国際研究拠点活動に基づく内外の研究者間のネットワークを一層幅広く提供し、国際的共同研究を推進することを目的とする。また、若手研究者の育成に貢献すると同時に、研究成果をエビデンスに基づく政策提言に結びつけることも目指す。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 欧米・アジア等の大学・学会等との国際学術交流を実施し、世界トップレベルの研究拠点として先端的・学際的研究の推進に寄与する。国際的学術誌の共同編集・発行を通じて、知的公共サービスをグローバルに提供することができる。若手研究者の養成及び教育内容の高度化、学会の国際化への対応および国際共著論文数の一層の増加にも寄与する。</p>
京都大学 原子炉実験所	複合原子力科学拠点	川端 祐司	複合原子力科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 研究用原子炉、FFAGやサイクロトロン等の加速器施設、ホトトラポラトリー、トレーサー施設等を共同利用・共同研究に供することにより、核エネルギー利用と放射線利用の両面から、我が国における複合原子力科学の発展を先導し、併せて原子力を初めとする当該分野における人材育成に寄与することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 高エネルギー陽子加速器と原子炉を結合した世界で唯一の加速器駆動システム(ADS)、世界初の治験を実施中のホウ素中性子捕捉療法(BNCT)システム、研究用原子炉(KUR)等を利用し、物質科学や放射線生命医学分野等の複合的研究分野に関する実験研究を行う国際的な研究拠点として、共同利用・共同研究を推進する。</p>
京都大学 ウイルス・再生医科学研究所	再生医学・再生医療の先端融合的共同研究拠点	開 祐司	再生医学 再生医療	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 再生医学・再生医療分野で先端的な研究実績を挙げた本研究所が、集約された知識・技術をもとに多様な先端的共同研究や研究資源の提供を行うことで、再生医学・医療の発展のみならず、基礎から応用にわたる横断的学際研究を開拓、発展させることを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 学内外の委員から構成される運営委員会のもと、研究者コミュニティの要望を踏まえて研究課題を全国公募し、共同研究を実施する。また、再生医学に関する情報発信と教育活動を推進する。これらを通じて研究所が培ってきた学術的成果や技術的な経験を共有することにより、学際的共同研究の促進、再生医学・再生医療の新たな展開及び若手研究者の育成に寄与する。</p>

京都大学 人文科学研究所	人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点	高木 博志	人文学 情報学 環境学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 多民族・多文化間の調和ある共生に資する知見を人文科学の分野から発信するため、世界的視野から複数文化の生成・変動・相互交渉などを研究し、学術的文化遺産の継承と新たな学知のパラダイムを切り拓く視座を提供する。また「みやこの学術資源研究・活用プロジェクト」を推進し、現代日本の知的基盤の形成過程を考察する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 多様な共同研究やIT技術の人文学への広汎な応用を推進して、「知の連鎖」がもたらす視野の広い研究活動体制のもとで若手研究者を育成するとともに、人のあり方を問い続ける人文科学の重要性を、綿密な考証と議論に基づいてつねに世界をリードする形で発信することにより、国際的な相互理解や交流を深めることに寄与する。</p>
京都大学 数理解析研究所	数学・数理学の先端的共同利用・共同研究拠点	山田 道夫	数学 数理学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 純粋数学から応用数学・数理学までを対象に数学全般に関する我が国唯一の研究拠点として、基礎数論・無限解析・応用数論を軸に、数学・数理学の基礎的研究を推進することを目的とする。RIMSプロジェクト研究、RIMS研究集会等を実施し、共同利用・共同研究活動を推進する。国外研究機関とも連携して国際共同研究を推進し、成果を全世界に発信する。また、量子幾何学を中心とした代数・幾何・解析の融合研究を推進し、最先端数学の研究力を強化する新しい幾何学を創造する。大学院教育や若手研究者育成も目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 数理解析研究所を軸として、RIMSプロジェクト研究、RIMS研究集会、RIMS共同研究、滞在型シンポジウムなどの事業を、内外の研究者と連携して行うことによって、研究者コミュニティの要望に応えていく。これらの拠点事業によって数学・数理学の基礎研究が格段に進展し、周辺分野との協力や国際共同研究が促進され、次世代の研究を支えるトップリーダーが輩出すると期待できる。</p>
京都大学 生存圏研究所	生存圏科学の共同利用・共同研究拠点	渡邊 隆司	生存圏科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 人類の生存を支え、人類と協調的に相互作用する場である「生存圏」の現状を精確に診断して評価することを基礎に、生存圏が抱える諸問題に対して、包括的視点に立つて解決策を提示する学問分野を科学研究と技術開発を一体化することで創出し、生存圏の質を向上させ、あわせてこれに資する人材を育成することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 大型大気レーダー等の大型設備・施設の共用、デジタルデータベース・実体資料の提供による共同利用研究、及び共同研究プロジェクトを国内外の多様な分野の専門家と連携して推進する。これにより、人類生存に関わる喫緊の課題解決にむけた新しい学際融合科学としての「生存圏科学」を創出し、持続発展可能社会の構築に貢献する。</p>
京都大学 生態学研究センター	生態学・生物多様性科学の先端的共同利用・共同研究拠点	中野 伸一	生態学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 我が国における生態学および関連学問分野唯一の拠点として、生態学・生物多様性科学の発展を望む研究者コミュニティの要望に応えるべく、本研究センターに集約された知識・技術・設備をもとに多様な共同研究を推進し、将来を担う研究者を育成することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 生態学・生物多様性科学の課題について、国内外の研究者に向けて共同研究、研究集会、ワークショップを募集・実施する。また、大型研究施設、研究サイト、研究資料の共同利用・研究を推進すると共に、ニュースレター、ホームページ等を通じて、生態学・生物多様性科学の国際的な発展に努める。</p>
京都大学 東南アジア地域研究研究所	地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点	河野 泰之	地域研究 地域情報学 相関型地域研究	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 施設の設置目的に沿って、情報学を応用した地域情報学の構築、地域に関する学術情報資源の共有化、地域横断的な相関型地域研究の推進の3つのミッションを推進する。そのため、地域横断的な研究課題ならびに地域研究情報資源の全国的な共有化や次世代育成に関わる共同研究を、全国の地域研究関連組織や研究者コミュニティに開かれた体制のもとに実施する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 サイバー時代のビッグデータに対応した次世代地域研究情報基盤を構築し、共同利用に供するとともに、相関型地域研究への適用を目指した共同研究を展開する。情報および情報技術を駆使した地域研究の展開は、国家の存立を資源輸入と貿易に依存するわが国が安定成長を持続する上で、世界動向の正確な理解に基づく確かな政策立案に貢献する。また、21世紀のパートナーたりうる東南アジアおよびアメリカ大陸諸国とわが国の間に有機的かつ効率的なネットワークを構築する。</p>
京都大学 東南アジア地域研究研究所	東南アジア研究の国際共同利用・共同研究拠点	河野 泰之	医学・生態・環境学 政治・経済学 文化人類学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 東南アジアにおける自然環境と調和する持続的発展と多文明・多民族共生の実現にむけた地球共生パラダイムの構築は、人類生存のための喫緊課題である。本拠点の目的は、東南アジア研究の国際共同研究拠点を形成し、国際的な研究ネットワークを活用して、地球共生パラダイムの構築を目指す先進的な文理融合型の共同研究・共同利用を推進することである。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 学際的研究における共同利用・共同研究のモデルになるとともに、国内外の東南アジア研究コミュニティの人材の流動性を高め、質の高い研究成果を世界に発信する。東南アジアの諸機関との協働・協力により、本学の戦略である「独創的な先端研究・融合研究の推進による学術・社会のイノベーション創出」を推進することにより、研究成果の社会還元や社会連携活動を担う人材の育成に寄与する。</p>

京都大学 防災研究所	自然災害に関する総合防災学の共同 利用・共同研究拠点	中川 一	社会・安全システム科学 (自然災害科学)	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 我が国唯一の自然災害に関する防災学の総合研究所として、理工学・人文社会科学の幅広い分野にわたる先進的・学際的・国際的な共同研究を推進するとともに、研究ネットワークの構築など国内外における防災研究を先導し、防災学研究の拠点としての役割を果たす。拠点における共同研究・研究集会等を通じて防災学を担う次世代の人材を育成する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 本研究所の大型設備・隔地施設や資料・データ等の利用を通じた国内外研究者との共同研究を推進するとともに、地域の防災関係機関との連携共同研究、地震・火山科学の共同利用・共同研究拠点との拠点間連携共同研究を推進する。これらを総合して実証科学と実践科学の推進を強化し、地震・火山・気象・水害・地盤災害に強い社会の実現に寄与する。</p>
京都大学 放射線生物研究センター	放射線生物学の研究推進拠点	高田 稷	放射線生物学 分子生物学 細胞生物学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 放射線生物学の先端研究や研究技術開発の推進のため、全国の関連研究者との共同研究を行うとともに、実験設備、研究資料や実験技術の供与などによる共同利用活動を行い、我が国の放射線生物学研究者コミュニティの研究拠点としての役割を担う。また当該分野の人材育成と先端的情報の発信源として機能するため、国際シンポジウム、研修会等を開催する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 伝統ある我が国の放射線生物学の国際的リーダーシップの持続と次代の放射線生物学を担う人材の育成のため、①先端的研究成果の発表、②最新の実験資料・技術の共同開発と利用者への提供、③国際的な研究情報交換ならびに研究者交流、④次代の放射線生物学を担う人材育成プログラムの実施、を推進する。</p>
京都大学 野生動物研究センター	絶滅の危機に瀕する野生動物(大型 哺乳類等)の保全に関する研究拠点	幸島 司郎	野生動物学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 近年の人間活動によって、生物多様性は大幅に劣化している。これを克服するためには、生命の調和ある共存を見据えた学問の推進と、環境教育や普及活動の実践が求められている。本拠点は日本で唯一の野生動物研究の拠点となり、人間と野生動物の調和ある共存に貢献することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 次の4つの取り組みをおこなう。すなわち、1)幸島観察所、屋久島観察所、熊本サンクチュアリ、遺伝子解析施設、野生動物遺伝資源データベースの共同利用、2)公募課題による共同研究、3)国内の連携動物園・水族館における研究と教育普及、4)海外連携機関との国際共同教育研究である。これによって、野生動物研究の推進と国際レベルの人材育成に寄与する。</p>
京都大学 霊長類研究所	霊長類学総合研究拠点	湯本 貴和	霊長類学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 くらし・からだ・こころ・ゲノムの観点から「人間とは何か」を生物学的に解明することを目的として、霊長類に関する総合的研究を有機的・総合的に推進する。野生霊長類の観察や自然保護、あるいは飼育霊長類を対象とした実験的な研究や動物福祉の推進において、多様性の研究とともに保全の検討を早急におこなう必要がある。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 先進国ならびに発展途上国の研究者を受け入れて、国際的なプロジェクトを推進することにより、世界各国の霊長類研究者の共同研究拠点として機能することになる。また、海外の調査地において生物多様性の教育を行うことにより、地球的な枠組みでの生物保全の重要性を共有する。すなわち「地球社会の調和ある共存」を求める。</p>
大阪大学 核物理研究センター	サブアトム科学研究拠点	中野 貴志	素粒子・原子核 宇宙線 宇宙物理学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 量子ビーム加速器や測定器等の大型設備を整備し、国内外の研究者の共同利用に供すると共にこれらを用いた研究を先導する。原子核やハドロン等のサブアトム物質の解明は元より、宇宙の物質優勢や質量の起源、恒星内での元素合成といった基礎的な研究、更には加速器科学の医学工学への応用など、幅広い分野で最先端研究を牽引することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 世界一のエネルギー分解能と安定性を誇る陽子ビームを供給するリングサイクロトロン加速器や高分解能磁気スペクトロメータ等の大型装置、世界最高エネルギーの偏極光ビームを供するレーザー電子光ビーム施設、国内で唯一の定常ミューオンビームライン等の大型設備を共同利用・共同研究に供し、原子核物理学及び関連分野の最先端研究を推進する。</p>
大阪大学 社会経済研究所	行動経済学研究拠点	松島 法明	行動経済学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 長期不況や経済格差など諸先進国が直面する成熟社会の諸問題解決には、従来の経済学における合理性の概念を広げた行動経済学の研究が必要であり、行動経済学研究のハブ拠点として、日本の経済学研究の国際化を牽引する。また、行動経済学の見地から成熟社会の諸問題を分析し、社会経済制度の設計・経済政策提言を行う。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 行動経済学と成熟社会の諸問題に関する公募型共同研究と並行し、経済実験やアンケート調査を国内外の研究者と共同実施し、行動経済学のノウハウを蓄積・普及させる。また、海外研究者との研究交流を通じて、研究の国際交流における拠点機能を担う。これらにより、現代社会の諸問題解決への処方箋が提示できると期待される。</p>

大阪大学 接合科学研究所	接合科学共同利用・共同研究拠点	南 二三吉	接合科学 (複合材料・表界面工 学)	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 本拠点は、溶接・接合に関する我が国唯一の国立大学法人の拠点として、「ものづくり」の基盤技術である溶接・接合を科学的視点から捉えた包括的研究を通じて、接合科学の体系化と学問基盤構築を図ることを目的としている。国内外から多数の共同研究者を受け入れ、研究者コミュニティの世界的な中核拠点としての役割を果たす。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 基盤研究を担う接合プロセス、接合機構、接合評価の3部門と先進接合科学を探索するスマートプロセス研究センターが両輪となり、本分野で世界トップの総合研究所として、大学の枠を越えた最先端学術研究を共同で推進する。溶接・接合に関する研究を深化・発展させ、ものづくりのイノベーション創出を通じて人類社会に貢献する。</p>
大阪大学 蛋白質研究所	蛋白質研究共同利用・共同研究拠点	中村 春木	蛋白質科学 生化学 生物物理学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 蛋白質科学分野における国際的な共同利用・共同研究拠点として、蛋白質の構造・機能研究とそれに基づく高次生命機能の研究を先導し、国内外の研究者に研究と交流の場を提供して共同研究を進め、蛋白質構造データバンクの運営等を行って蛋白質科学の振興をはかり、国内外の学生・若手研究者の育成を行うことを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 世界最高級の性能をもつクライオ電子顕微鏡、超高磁場NMR装置、SPRING-8ビームライン等の大型設備を共同利用に供し、国内外の研究者を受け入れて共同研究を推進する一方、国際シンポジウムの開催やデータベース構築により情報発信を行う。こうして多階層構造生命科学を創成し、世界の生命科学の発展に寄与する。</p>
大阪大学 微生物病研究所	微生物病共同研究拠点	松浦 喜治	感染症学 生体応答医学 基礎生命科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 感染症学分野において日本トップレベルの学術的知見、研究施設を有する研究拠点として、集約された知識・技術等を研究者コミュニティや異分野の研究者に提供し、多様な先端の共同研究を推進するとともに、感染症学・生体応答医学・基礎生命科学を積極的、意欲的に担う次世代の若手研究者を教育・育成することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 最先端の大型研究機器、危険度の高い病原微生物を扱う実験施設、遺伝子改変マウスを作製する動物実験施設など特徴ある施設・設備を共同利用に供することにより、分野横断的・学際的共同研究を推進する。これにより、研究者コミュニティの活性化や感染症学における新分野創成が期待され、日本全体の感染症研究の発展に貢献する。</p>
大阪大学 レーザーエネルギー学研究センター	レーザーエネルギー学先端研究拠点	兒玉 了祐	プラズマ科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 世界最大級の高出力レーザー装置並びに関連施設を国内外の研究者の共同利用に供することによって、レーザーエネルギー学の基礎と応用に関する研究・教育を推進することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 高出力レーザー技術を基盤に、常に先端的な研究環境を提供し、高出力レーザー科学並びに高エネルギー密度科学コミュニティの国内唯一、国際的にもユニークな実験・研究拠点として、戦略的・学際的に研究を推進し、当該分野の学術基盤の発展に貢献する。</p>
鳥取大学 乾燥地研究センター	乾燥地科学拠点	山中 典和	乾燥地科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 乾燥地科学研究に組織的に取り組む我が国唯一の教育・研究機関として、乾燥地における砂漠化や干ばつなどの諸問題に対処し、乾燥地における自然・社会系の持続性の維持・向上に資する研究を推進する。さらに、乾燥地科学分野の研究者の利用に供することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 特徴的かつ最先端の研究施設・設備等を利用した多様な共同研究を推進し、国際学術ネットワークの充実を通じて世界的な乾燥地研究拠点の形成を目指す。 平成27年1月に設立された鳥取大学国際乾燥地研究教育機構等と連携し、学際的な乾燥地科学研究の発展に寄与する。</p>
岡山大学 資源植物科学研究所	植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点	前川 雅彦	植物遺伝資源学 植物環境応答学 分子育種学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 地球環境の著しい悪化、地球規模での人口増加は、深刻な食糧不足を惹起しつつあり、安定した食糧生産のための品種改良が喫緊の課題となっている。本拠点では、国内外研究者との共同研究の推進により、「様々な環境ストレス下での食糧生産を可能にするため、資源植物の環境適応性の解明とその応用、および関連分野の人材育成」を目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 本拠点がこれまで蓄積してきた遺伝資源のゲノムデータ、環境応答データや植物の様々な生理応答に関する情報を広く共同利用、共同研究に供し、大学院生や若手研究者を積極的に受け入れ、グローバルに活躍する人材を育成しつつ、植物ストレス科学研究を推進する。これにより、植物科学分野の拡大発展と地球規模の課題である食糧問題解決に貢献する。</p>

岡山大学 惑星物質研究所	地球・惑星物質科学研究拠点	中村 栄三	地球惑星物質科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 先進的地球・惑星物質科学研究の発展のため、自由闊達な学問の実践により社会的・文化的発展モデルとなる全国共同利用・共同研究拠点を確立し、学術コミュニティの発展に寄与する。普遍的(複雑系)物質科学的視座を広く普及させ、地球・惑星物質科学分野を含む物質科学関連学術コミュニティの融合・連携の活性化を喫緊の課題として取り組む。</p> <p>【取組内容・期待される効果】地球、惑星の「起源・進化・ダイナミクス」そして生命・流体に関わる物質科学的理解が一段と深化する。世界的にも類を見ない、地球惑星物質総合解析システムをさらに発展させ、連携研究を強化する。先進的研究活動によって地球・惑星物質科学を国際的に主導し、新たな物質科学のフロンティアを共同利用・共同研究拠点として指し示す。</p>
広島大学 放射光科学研究センター	放射光物質物理学研究拠点	島田 賢也	物性物理学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 放射光を用いて、物性物理学を中心とする物質科学研究及び生命科学との異分野融合研究を先導し、サイエンスの未踏領域の開拓を進めること、また、国内外から多様な人材が集う教育研究環境を生かした人材の育成を進めることを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 物質中のスピン・電子状態を世界最高レベルの精度で決定することにより超伝導発現メカニズムの解明等の研究が大きく進展するほか、溶液中の生体物質立体構造等の研究で卓越した先駆的成果が見込まれる。また、国際的環境の中でグローバルに活躍出来る人材育成が進むことが期待され、基礎から応用科学にいたる幅広い研究分野の発展に貢献する。</p>
徳島大学 先端酵素学研究所	酵素学研究拠点	高濱 洋介	病態医化学 医科学一般 分子生物学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 我が国唯一の酵素学分野の研究拠点として、基礎医学研究者コミュニティと広範な医学応用を望む研究者コミュニティとが、酵素学を共通のキーワードとして、健康・疾患生命科学と医学応用の領域で共同利用・共同研究を推進し、先端酵素学を先導することで、社会的要請に応え、新たな学術研究の展開を図ることを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 世界屈指の解析装置を用いたプロテオミクス解析、メタボロミクス解析並びにゲノミクス解析、個体解析を共同利用に供することにより、ゲノムから個体までの情報を統合した網羅的酵素・タンパク質の機能解析を推進する。さらに、病態解明と創薬イノベーション創出に向けた応用研究を推進するとともに、最先端酵素学の知識と技術の提供を通じて研究者の基礎的研究能力を充実させ、新たな学術研究領域の創成とその発展に貢献する。</p>
愛媛大学 地球深部ダイナミクス研究センター	先進超高压科学研究拠点	入船 徹男	超高压科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 超高压科学分野における我が国唯一の拠点として、共同利用・共同研究活動を通じた地球惑星深部科学、超高压物質科学、及び関連分野の研究を先導することを目的とする。またセミナーや研究会等を通じ、国内外の超高压科学関連研究者コミュニティにおける研究交流・人材育成と、学際的研究の推進を目指す。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 世界最大・最多の多アンビル装置を含む超高压装置群や、特徴ある物性測定・分析装置類を共同利用に供した先進的な超高压科学研究を推進する。また、独自の世界最硬ナノ多結晶ダイヤモンド(ヒメダイヤ)合成技術や、高度な第一原理計算などの数値計算技術を基盤とし、超高压科学の新たな展開と新しい学術分野の創成を行う。</p>
愛媛大学 沿岸環境科学研究センター	化学汚染・沿岸環境研究拠点	岩田 久人	環境科学 環境化学 海洋環境学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 生物環境試料バンク(es-BANK)及び先端研究設備等を共同利用・共同研究施設として機能化し、世界各所から収集した試料の有効利用を体系化するとともに、環境科学関連分野の一層の発展に寄与することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 es-BANKに冷凍保存された試料の共同利用化をすすめ、国際共同研究を戦略的に推進する。併せて、有害化学物質分析装置・毒性解析装置等を共同利用・共同研究機器として整備し、学際的共同研究を強化する。さらに研究者派遣や留学生の受け入れ等の交流により、世界をリードする最先端共同研究拠点の形成が期待できる。</p>
高知大学 海洋コア総合研究センター	地球掘削科学共同利用・共同研究拠点	徳山 英一	地球惑星科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 地球科学、特に地球掘削科学分野における試料保管・解析拠点として、卓越した施設設備や研究支援体制を基礎とした拠点機能の高度化と国際化を図るとともに、IODP(国際深海科学掘削計画)を強力に先導し、地球環境システム変動、固体地球の物質循環とダイナミクス等に関する先端研究を推進することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 大型冷蔵保管庫と高精度分析機器群を共同利用に供することにより、IODPを中心とした地球掘削科学、海底エネルギー資源の成因モデル、地球生命科学等に関する研究を推進する。拠点機能を生かしたコアスクールや若手育成プログラム等の実施により、国内外の若手研究者の育成に貢献する。</p>

九州大学 応用力学研究所	応用力学共同研究拠点	花田 和明	自然エネルギー学 地球環境学 核融合・プラズマ科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 新エネルギー、地球環境、核融合・プラズマ分野における応用力学共同研究拠点として、先端かつ学際的課題に関し、高い水準の研究成果を上げるとともに、人類社会の地球環境とエネルギー問題に対し、共同利用・共同研究拠点を基にしたプロジェクト研究に力学的手法を用いて取り組み、その成果をもって学界・社会へ貢献する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 地球環境とエネルギーの理工学に関する大型実験施設、衛星解析技術、モデリング技術、特長的核融合・プラズマ実験装置等を共同利用に供することにより、国内・国際共同研究を推進する。これにより、新エネルギー（自然と核融合・プラズマ）および地球環境分野において新たな学理の発見、発明を創出し、基礎科学とその応用発展に寄与する。</p>
九州大学 生体防御医学研究所	多階層生体防御システム研究拠点	中別府 雄作	生体防御医学 分子生物学 多階層オミクス研究	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 生体防御医学分野における先端的かつ学際的な共同研究拠点として、各種オミクス（網羅的生体分子情報学）・構造生物学・発生工学などの新規技術開発を先導し、多階層の基盤科学技術を段階に発展させ、以って我が国の生体防御領域の学術研究を世界最高水準レベルに引き上げることを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 多階層（各種オミクス・構造生物学・発生生物学）の新規技術開発の共同利用・共同研究を推進して、生体防御に関連する多階層情報を体系化して提供するとともに、生体防御システムの破綻による疾患メカニズムの解明に関する先端学際的共同研究を推進する。これにより、難病克服・健康増進に貢献する。</p>
九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所	産業数学の先進的・基礎的共同研究拠点	福本 康秀	数学 数理学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 産業数学関連コミュニティの意見を反映させ、企業および数学・数理学の関連研究者の連携のもと、産業界等から現れる先端的・基礎的研究テーマの共同研究・研究交流を行い、新しい関連分野を開拓する。産業数学分野の理論・応用における国際研究拠点として研究成果を外内に発信し、数学・数理学の研究において世界を先導する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 現在直面する産業界等の問題を数学的に定式化し、関連分野との協力により解決しつつ、潜在需要への対応と将来の技術イノベーションのため、数学の基礎の深化をはかる。産官学の双方向交流で数学のニーズとシーズが出会う場を提供し、協働を通じて数学の社会貢献を実現する。さらに、アジア・太平洋地域を中心に産業数学研究のグローバル展開をはかる。</p>
佐賀大学 海洋エネルギー研究センター	海洋エネルギー創成と応用の先進的共同研究拠点	永田 修一	エネルギー学 船舶海洋工学熱工学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 海洋エネルギーに関する科学技術を戦略的に推進する国際的な先進的の中核研究拠点として、国際エネルギー機関（IEA）、国際電気標準会議（IEC）等の国際機関を先導し、政府が推進する「海洋基本法」及び「海洋基本計画」に基づき海洋エネルギー利用とその人材育成を推進することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 “世界に先駆けて”運転を開始した、実海水のみを用いた「海洋温度差発電実証プラント」等の世界最高レベルの海洋エネルギー利用装置を共同利用に供することにより、世界的な海洋エネルギー産業の発展に資する研究開発と関連分野の人材育成を推進する。これにより21世紀の地球規模でのエネルギー問題と環境問題の解決に寄与する。</p>
長崎大学 熱帯医学研究所	熱帯医学研究拠点	平山 謙二	熱帯医学 感染症学 グローバルヘルス	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 これまでの国際的な活動実績とアジア・アフリカ海外教育施設などの研究基盤を背景とし、熱帯感染症の流行する現場に根ざした国内外の関連機関との共同研究を先導すると共に、感染症研究動向情報や病原体のリソースセンターとして機能し学術コミュニティの活性化に貢献することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 国内と海外拠点に整備したBSL-3までの病原体を扱うことのできる設備及びコホート基盤を共同利用に供することにより、熱帯病・新興感染症の対策研究を推進する。これにより、オールジャパン体制での熱帯医学研究を活性化し、研究成果の応用による育薬、熱帯病の防圧ならびに健康増進への国際貢献、これらに係る研究者と専門家の育成に寄与する。</p>
熊本大学 発生医学研究所	発生医学の共同研究拠点	西中村 隆一	発生医学 再建医学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 発生学の観点から生命現象とヒト疾患の解明を推進する発生医学分野において、国内外の共同利用・共同研究を先導し、発生医学の国際的な研究基盤を構築することを目的とする。発生過程の身体づくりという原点から、生涯にわたる健康生命に関する基礎研究を実施する意義と必要性がある。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 発生医学分野の先端研究、恒常的視野に立った人材育成、リエゾンラボ研究推進施設による支援、国内外の連携ネットワークを通して、国際レベルの共同研究を活性化し、発生過程の仕組みを分子、細胞、器官、個体において究明し、ヒト疾患の病因解明、診断・予防法の確立を目指すとともに、再生医療等の安全で有効な治療法の開発に貢献する。</p>

<p>琉球大学 熱帯生物圏研究センター</p>	<p>熱帯生物圏における先端的環境生命 科学共同研究拠点</p>	<p>酒井 一彦</p>	<p>サンゴ礁・マングローブ 学 熱帯生物多様性学 熱帯生物資源学</p>	<p>H28.4.1 ～ H34.3.31</p>	<p>【目的・意義・必要性】 亜熱帯域に立地する唯一の共同利用・共同研究拠点として フィールド研究を軸に、熱帯・亜熱帯島嶼域において、サンゴ 礁、マングローブ林、熱帯・亜熱帯雨林等、熱帯・亜熱帯に特徴 的な生態系で、生物多様性、気候変動への生物と生態系の反 応、遺伝資源、共生現象等に関する共同研究を、国内外の研究 者と推進することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 亜熱帯の自然を活かしたフィールド研究を軸に、熱帯・亜熱帯の 高い生物多様性の形成・維持機構と、人為的環境変化が熱帯・ 亜熱帯に特有なサンゴ礁、マングローブ林、森林等の生物や生 態系に及ぼす影響等に関わる共同研究を遂行する。これによ り、熱帯生物圏研究の発展に寄与し、気候変動下における生物 多様性の保全や利活用に貢献する。</p>
-----------------------------	--------------------------------------	--------------	---	-----------------------------------	---

(公立大学)

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	認定期間	共同利用・共同研究拠点の概要
名古屋市立大学 不育症研究センター	不育症・ヒト生殖メカニズム 解明のための共同研究拠点	杉浦 真弓	不育症 先天異常 不妊症 出生前診断 生殖遺伝学 生殖精神医学 少子化 卵子老化	H27.4.1 ～ H33.3.31	○ 不育症の課題は ①若手研究者が少ない。②原因不明に対する科学的根拠の 乏しい治療が自費診療でされている。③不育症の認知度は 低い。④人文社会学的研究に限られる。 などである。若手研究者を育成し、患者を啓発し、不育症認 知度上昇に貢献する。さらに、ヒト生殖のメカニズムを解明す ることが拠点設置の目的である。 ○ 比較ゲノムハイブリダイゼーションシステムを共同利用に 供し、着床前スクリーニング技術を若手研究者に指導する。 不育症関連遺伝子や心理社会因子に関する共同研究を通じて 我が国の臨床研究の向上に貢献する。高校生を対象とした 遺伝学的技術指導や患者を対象とした公開講座によって 不育症や遺伝に関する知識の普及が期待できる。
名古屋市立大学 創薬基盤科学研究所	創薬基盤科学技術開発研究 拠点	樋口 恒彦	創薬科学 神経科学 腫瘍学 生物科学 レギュラ トリーサイエ ンス 医化学一般 薬理学一般 生物系薬学 物理系薬学 化学系薬学 薬理系薬学 医療系薬学	H28.4.1 ～ H34.3.31	○ 抗がん剤オキサリプラチンや抗腫瘍バイオ医薬品モガム リズマブ等の開発実績を背景に、平成23年に設立された創 薬基盤科学研究所をさらに発展させる。そして、超高齢社会 のニーズにこたえるべく、がんと神経疾患に特化したアカデミ ア発の医薬品開発を行なう共同利用・共同研究拠点として整 備することを目的とする。 ○ 創薬スクリーニング機器および本研究所独自のスクリー ニング系や化合物を用いた共同利用や共同研究を行ない、 がんと神経疾患に対する医薬品開発を行なう。さらに、多様 な連携研究機関との連携により、創薬の入口から出口までカ バーする共同研究ネットワークの拠点として共同研究の活性 化と研究者コミュニティの活動を支援する。
大阪市立大学 都市研究プラザ	先端的都市研究拠点	阿部 昌樹	複合領域 人文学 社会科学	H26.4.1 ～ H32.3.31	○ 都市をフィールドに据え、文化創造と社会包摂に資する 先端的都市論を構築する共同研究と研究拠点の形成を行う 中で、「21世紀型のレジリエント(復元力に富んだ)都市」のあ るべき理念モデルと実践モデルを彫琢する。 ○ グローバルCOEプログラム拠点としてグローバルな人材 の育成に取り組んで来た実績を引き継ぎ、拠点活動と融合さ せていくとともに、さらなるスケールアップが望めるよう、若手 研究者の育成に取り組む。 ○ 関連研究者コミュニティとの連携・協力による共同研究の 公募の実施や、国内外の研究者コミュニティ等からの共同研 究の成果報告、加えて拠点による先端都市研究の推進内容 に関する活動の成果を報告するための国際共同学術シンポ ジウムの実施を通じて、地域社会および国際社会の発展に 貢献することを目指す。
大阪市立大学 人工光合成研究センター	人工光合成研究拠点	天尾 豊	プロセス・化 学工学 触媒・資源 化学プロセ ス	H28.4.1 ～ H34.3.31	○ 本拠点では、当研究センターが保有する高度分析装置 等とこれまでに培ってきた光合成・人工光合成研究に関する 学術的知見資産を学外に提供し、優れた研究者コミュニティ の集結による共同研究の推進によって、人工光合成研究の 中核機関となることを目的とする。 ○ 国内唯一の人工光合成研究に特化した研究拠点として、 高度分析装置等を共同利用に開放し、光合成・人工光合成 に関連した科学技術分野の裾野を広げるための共同利用・ 共同研究を推進する。これらを通じて、人工光合成研究の学 理の深化と実用化を達成し、人工光合成研究の発展に貢献 する。
和歌山県立医科大学 みらい医療推進センター	障害者スポーツ医学研究 拠点	田島 文博	疫学 予防医学	H25.4.1 ～ H31.3.31	○ 当センターの持つ多くの最先端医科学検査・測定機器や 診療所機能を活用し、障害者スポーツ医学及び関連領域 の研究者の連携、共同研究の推進を目指す。 ○ 共同研究等の推進によって、障害者スポーツ医学等が 発展するだけでなく、その成果は高齢者や運動機能、内部機 能や脳機能等に障害が認められる者に対する健康増進のた めの運動手法の開発等にも活用でき、超高齢社会におけ る国民健康の増進にも寄与する。

兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 天文科学センター	光学赤外線天文学研究拠点	伊藤 洋一	天文学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国の研究者・学生に開かれた共同利用・共同研究拠点として、主に可視光や赤外線を用いた観測を通じて天文学・惑星科学を先導する。最先端の観測により、宇宙における天体・現象の普遍性や多様性を明らかにすることを目的とする。 ○ 日本最大の光学赤外線望遠鏡「なゆた望遠鏡」を共同利用に供することにより、多種多様な観測を実施し、世界的にも独創的な研究成果を挙げる。また、研究観測や装置開発を共同で行うことにより、全国の大学における学生教育にも貢献する。これらの活動により、天文学・惑星科学の発展に寄与する。
----------------------------------	--------------	-------	-----	--------------------------	--

(私立大学)

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	認定期間	共同利用・共同研究拠点の概要
自治医科大学 先端医療技術開発センター	大型動物を用いた橋渡し研究拠点	花園 豊	医学(移植再生医療、内視鏡外科学)	H29.4.1 ～ H35.3.31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実験用ミニブタを医学教育・研究などの先進的医療技術開発に取り組んできたセンターの成果・実績を基に、ブタ手術室、MRI、CT、TaVinciなどの施設資源、ブタを扱う専門研究者及びノウハウを活用する。 ○ 学内のみならず学外の研究者にも広く開放することで、分野間連携、異分野融合など新たな学際領域の開拓及び人材育成の拠点としての機能の強化・充実に努めることを目的とする。
慶應義塾大学 パネルデータ設計・解析センター	パネル調査共同研究拠点	樋口 美雄	経済統計学 応用経済学	H20.4.1 ～ H25.3.31 【再認定】 H27.4.1 ～ H33.3.31	<ul style="list-style-type: none"> ○ データの整理・管理、公開、シンポジウムなどの開催を通じて研究成果の報告やパネルデータの有用性、活用方法を伝播することを目的とする。 ○ 社会科学における主体行動等の理論仮説に基づき、同一人や同一家計、企業の行動、経済状況の変化を追跡調査した国際比較可能なパネルデータを設計構築し、これを用いて実証分析を行う。 ○ 調査収集されたパネルデータの公開を通じて、主体行動や経済状況の変化についての実態把握・国際比較、経済理論に基づいた動学的仮説の検証、法律や制度・政策改正の客観的データに基づいた評価、積極的な政策提言、国際比較可能なパネルデータの作成を可能にし、先導的研究拠点として日本および世界の実証経済学の水準向上に寄与する。
昭和大学 発達障害医療研究所	発達障害研究拠点	加藤 進昌	複合領域 脳科学 基盤・社会 脳科学	H26.4.1 ～ H32.3.31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 成人の自閉症スペクトラム障害(ASD)に関する国内最大の臨床集積を活用した共同研究を目的とする。 ○ 本拠点を脳科学・教育学・人文社会学を含む全国の共同研究者に開放し、学際的なアプローチを展開する。 ○ 文理融合型共同研究拠点として、発達障害の臨床研究との橋渡しを実現し、学際性・集学性の強い共同研究によって「共感性とは何か」の解明を目指す。
玉川大学 脳科学研究所	社会神経科学研究拠点	小松 英彦	神経科学、 社会心理、 数理解析 学、ロボッ ト工学、発 達科学	H29.4.1 ～ H35.3.31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会性行動実験、発達実験、MRIによる脳形態活動計測、社会ロボティクス研究を同一研究所内で一体的に行うことができる研究所の特徴を活かした共同利用・共同研究を展開する。 ○ 人間の社会性の理解を目指して、脳科学を中心とした学際研究を展開することを目的とする。

<p>東京農業大学 生物資源ゲノム解析センター</p>	<p>生物資源ゲノム解析拠点</p>	<p>矢嶋 俊介</p>	<p>生物資源ゲノム解析</p>	<p>H25.4.1 ～ H31.3.31</p>	<p>○ 新型シーケンサーを用いて、微生物から植物、高等動物に至るまで、生物の網羅的遺伝子解析に関わる共同利用・共同研究を推進する。 ○ モデル生物のみならず、農学分野等において重要となる非モデル生物の解析にも取り組み、育種などその有用資源の活用にも貢献する。 ○ センターを中心に研究者間の交流を深めるとともに、この分野の研究を担う人材育成にも貢献する。</p>
<p>法政大学 野上記念法政大学能楽研究所</p>	<p>能楽の国際・学際的研究拠点</p>	<p>山中 玲子</p>	<p>人文学(芸術学・芸術一般)</p>	<p>H25.4.1 ～ H31.3.31</p>	<p>○ 国際・学際的視野による能楽研究を確立するため、国内外の研究者と共同して、豊富な文献資料に基づく実証的研究を進めるとともに、総合芸術としての能楽に対応した多様な視点による新たな研究の創造、国際的研究のための方法論の共有をめざす。 ○ ①能楽研究所所蔵資料に基づく文献学的・国語学的研究、②江戸時代の能楽についての学際的研究、③能楽の演出・技法に関する総合的研究、④国際的視野に基づく新たな方法論構築のための能楽研究を実現する。</p>
<p>明治大学 先端数理科学インスティテュート</p>	<p>現象数理学研究拠点</p>	<p>萩原 一郎</p>	<p>数物系科学 数学基礎・ 応用数学</p>	<p>H26.4.1 ～ H32.3.31</p>	<p>○ 既存の一分野では解決出来ない複合的な現象の仕組み解明に関する文理融合型の研究を数理モデリングの視点から押し進めるため、国際レベルの研究拠点として研究者に場を提供し、当該研究の発展に資することで、広く社会からの要請に応えることを目的とする。 ○ 実現に直接携わる研究者のニーズと数学・数理科学分野の研究者のシーズとのマッチングを取り持つことができる現象数理学を、実社会で解決が求められている課題克服に貢献する実用性の高い学問へと発展させる。 ○ これまで仕組みが理論的に解明できず、経験的に対処していた問題に対して、現象数理学が新しい方法論を提供し、関連研究分野の発展に大きく寄与する。</p>
<p>東京工芸大学 風工学研究センター</p>	<p>風工学研究拠点</p>	<p>松井 正宏</p>	<p>風工学 建築環境・ 設備 建築構造 都市計画</p>	<p>H25.4.1 ～ H31.3.31</p>	<p>○ 台風や竜巻等による強風災害の低減、自然通風の利用による省エネルギー化と快適性の向上、都市のヒートアイランド・空気汚染対策等に係る共同利用・共同研究を推進する。 ○ 大型境界層風洞、温度成層風洞、アクティブ制御マルチファン人工気候室、竜巻状気流発生装置、外装材耐風圧性能試験機などの特色ある研究施設や1000ケースを超える空力データベース、風災害データベースを活用することにより、我が国の風工学と関連学術分野の基盤強化と新たな発展、人材育成に貢献する。</p>
<p>愛知大学 三遠南信地域連携研究センター</p>	<p>越境地域政策研究拠点</p>	<p>戸田 敏行</p>	<p>社会システム工学 安全工学</p>	<p>H25.4.1 ～ H31.3.31</p>	<p>○ 従来の地域政策で対応されなかった県境地域・国境地域などの行政境界を跨ぐ越境地域政策の科学的な確立を目的とする。 ○ 政策手法を構築する越境地域計画コア、政策情報を形成する越境情報プラットフォームコア、計量的予測に関する越境地域モデルコアでの共同研究を実施し、各越境地域における地域データ整備から将来予測、地域政策合意に至る総合的な越境地域政策研究を促進する。 ○ 国内・海外の越境地域における地域政策研究機関との共同研究、地域間研究交流を行う。</p>

中部大学 中部高等学術研究所国際 GISセンター	問題複合体を対象とするデ ジタルアース共同利用・共同 研究拠点	福井 弘道	地球情報科 学 地球人間 科学 持続可能シ ステム	H26.4.1 ～ H32.3.31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境・災害等の地球レベルのリスクを「問題複合体」と捉え、サイバースペース上に構築される多次元・多解像度の地球(デジタルアース)を活用して、その解題を目指す研究拠点活動を推進する。 ○ 国内外の研究機関の参加により、異分野技術を統合し「リアルタイムセンシングデータの統合・俯瞰」「不確実性可視化」「科学コミュニケーション支援」等、デジタルアース構築の手法と学問的方法論を確立して、関連諸科学の発展に貢献する。 ○ 自治体等の参加により、「災害等の危機管理」「地球温暖化適応策」「エネルギー計画」等、具体的な問題複合体を事例に社会実装を行い、デジタルアースの応用手法を確立するとともに、その研究を担う若手研究者を育成する。
藤田保健衛生大学 総合医科学研究所	脳関連遺伝子機能の網羅的 解析拠点	倉橋 浩樹	総合生物	H27.4.1 ～ H33.3.31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 脳・神経系に発現する遺伝子の機能解析を包括的に実施するための共同研究拠点として、遺伝子改変マウスや薬剤投与等の処置を行ったマウスを保有する研究者を対象に、網羅的行動解析やトランスクリプトーム解析、プロテオミクス解析等の各種先端的オミクス解析を用いた支援的共同研究を行う。 ○ これまでに国内外100以上の研究室との共同研究にて網羅的行動解析を実施してきた実績をベースに、次世代シーケンサー等の先端機器を用いた各種オミクス解析等を組み合わせた支援的共同研究を実施する。これらの結果をデータベース化することで、関連研究者コミュニティの発展に貢献する。
立命館大学 アート・リサーチセンター	日本文化資源デジタル・ アーカイブ研究拠点	細井 浩一	文化情報学	H26.4.1 ～ H32.3.31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当センターが有する日本文化資源の膨大なデータベースの利用を国内外の共同研究者に開放するとともに、これまでに蓄積してきたデジタル・アーカイブ技術やデータベース管理技術を研究プロジェクト活動の基盤として提供し、情報アーカイブ・知識循環型共同研究を推進する。 ○ デジタル・ヒューマニティーズ型の研究プロジェクトを広く国内外より公募し、これまで蓄積してきた海外日本文化研究拠点(美術館・博物館を含む)との人的ネットワークを活用しながら、従来にない広がりを持つ研究コミュニティ創出に寄与する。 ○ 専門性の高い文化資源型データベースの継承という課題について、実用的な手法を開発、提案し共有化する。
京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター	舞台芸術作品の創造・受容 のための領域横断的・実践 的研究拠点	天野 文雄	芸術一般	H25.4.1 ～ H31.3.31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 舞台芸術一般の学術研究において、舞台芸術作品の創造・受容の多様なプロセスを、「劇場を用いた研究」という手法を通じて実践的に探究する。 ○ 以下のテーマに従って、本研究拠点が中心となり、学内外の様々な研究者やアーティストと共同しながら研究を進めていく。①近代日本語における〈語り〉と〈声〉、②マルチメディア・パフォーマンスの再定義、③「伝統演劇の読み直し」とそれに基づく新たな舞台化の方法の探究、④ダンス作品の普遍性と特殊性に関する実験的研究、等。 ○ 公募型の共同研究を実施し、新しい領域横断的な研究者コミュニティの創出を図る。
東京理科大学 総合研究院火災科学研究セ ンター	火災安全科学研究拠点	辻本 誠	理工系 工学 建築学 建築環境・ 設備	H21.7.1 ～ H26.3.31 【再認定】 H26.4.1 ～ H32.3.31	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都市化に伴う新空間(超高層、地下)及び工業化・省エネルギー化に伴う新材料(主にアルミ、プラスチック等)の利用に伴って増大する火災の潜在リスクの抑制に資することを目的とする。 ○ 国内の知を集約させる役割を本拠点で担うことにより、多分野横断型の火災科学“理論”と大型実験施設による“実践”的対応を中心とした研究が実施され、火災被害損失の低減に大きく寄与することを目的とする。 ○ 国内のみならず、海外の研究者(グループ)にも機会を提供することで全国的かつ世界的な学術研究の発展に寄与する。

東京理科大学 総合研究院光触媒国際研究センター	光触媒研究推進拠点	藤嶋 昭	光触媒科学 光化学 電気化学	H27.7.1 ～ H33.3.31	<p>○本拠点では、当センターが保有する光触媒性能評価装置等とこれまでに培ってきた学術的知見資産及び光触媒利用の技術的ノウハウを学外に提供し、優れた研究者コミュニティの集結による共同研究の推進によって、光触媒の中核機関となることを目的とする。</p> <p>○本拠点のみに整備された光触媒性能評価装置等を共同利用に開放し、光触媒に関連した科学技術分野の裾野を拡大するための共同利用・共同研究を推進する。これにより、光触媒科学の深化と社会実装を達成し、光触媒産業の発展に貢献する。</p>
文化学園大学 文化ファッション研究機構	服飾文化共同研究拠点	濱田 勝宏	生活科学 衣住生活学 (服飾文化)	H20.10.1 ～ H25.3.31 【再認定】 H25.4.1 ～ H31.3.31	<p>○平成20年度から平成24年度までの拠点整備推進事業により、合計で44課題におよぶ分野横断的な共同研究を実施し、服飾文化を中核とした幅広い研究分野にまたがる研究者コミュニティの形成と、研究成果の蓄積を実現した。今後は、44課題中13課題を占めた「きもの」文化研究を一つの中心に据え、和装の文化的側面から現代ファッションへの応用にわたる研究分野に比重を置きつつ、服飾文化研究の更なる発展を目指す。</p> <p>○本学が拠点整備推進事業も含めて整備してきた貴重図書、服飾関連雑誌、国内・国外にわたる歴史的服飾資料・民族服飾資料・染織資料、各種服飾素材、各種映像資料、現代服飾資料、服飾文化に関するデータベース等を研究者コミュニティに開放して共同利用を促進する。</p> <p>○服飾文化研究に関わる成果をグローバルに発信して日本の服飾文化の世界的な浸透を図るとともに、我が国の服飾文化とファッション産業の振興に寄与する。</p>
早稲田大学 イスラーム地域研究機構	イスラーム地域研究拠点	桜井 啓子	地域研究	H20.10.1 ～ H25.3.31 【再認定】 H25.4.1 ～ H31.3.31	<p>○現代問題への歴史的なアプローチと地域間比較の手法を活用することにより、イスラームとイスラーム文明に関する実証的な知の体系を築くことを目的とする。</p> <p>○早稲田大学を中核に、東京大学、京都大学、上智大学、東洋文庫という、それぞれの特徴を持った研究拠点がネットワーク型の共同利用研究組織を構成する。</p> <p>○アラビア文字による情報検索システムを整備して、蓄積された史料のデータベース化、情報の公開、史料利用の全国化・国際化を促進する。</p> <p>○次世代のイスラーム研究を担う若手研究者を育成する。</p>
早稲田大学 坪内博士記念演劇博物館	演劇映像学連携研究拠点	岡室 美奈子	人文学 芸術学 芸術学・芸術史・芸術一般	H21.7.1 ～ H26.3.31 【再認定】 H26.4.1 ～ H32.3.31	<p>○国内外の演劇映像研究を牽引して学術研究の推進に寄与するとともに、研究成果を広く社会に還元することを目指す。</p> <p>○演劇博物館に収蔵されている貴重な未発表資料群のリストの公表や、各資料群を専門的に研究するための研究チームの全国公募を通じて、研究分野全体の活性化を目指し、開放的で互恵的な研究交流を実現する。</p> <p>○積極的にアーカイブを公開することで研究資源の共有化を大胆に図り、百万点を超える膨大な資料を収蔵するアジアで唯一の演劇博物館を母体とする本拠点ならではの研究を推進する。</p>
神奈川大学 日本常民文化研究所	国際常民文化研究拠点	田上 繁	文化人類学 民俗学	H21.7.1 ～ H26.3.31 【再認定】 H26.4.1 ～ H32.3.31	<p>○国家・民族の枠組みを超え、何れの社会においても大多数を占める庶民層を「常民」として概念化し、等身大の生活文化を総合的に調査・分析する方法論を確立し、多文化共生社会といわれる現代社会にあって、真の国際理解・異文化理解に資することを目的とする。</p> <p>○本拠点で開発した、文献・民具・絵画・写真・映像・景観等を含む総合的な資料解析に基づく学際的な研究方法とノウハウをベースに、在野研究者・若手研究者も含めた幅広い研究者コミュニティに呼びかけ、新たなテーマに基づく共同研究を推進する。</p> <p>○本拠点および日本常民文化研究所が学術交流を通して築き上げてきた日本および中国・韓国・南米・北米・欧州などの各大学・研究機関とのネットワークを活かし、常民文化研究の国際的な拠点として新たな展開を図る。</p>

<p>大阪商業大学 JGSS研究センター</p>	<p>日本版総合的社会調査共同 研究拠点</p>	<p>岩井 紀子</p>	<p>社会学</p>	<p>H20.10.1 ～ H25.3.31 【再認定】 H25.4.1 ～ H31.3.31</p>	<p>○ 本拠点がこれまでに実施・蓄積してきた総合的社会調査のデータ「JGSS累積データ2000-2010」、「JGSS-2012」、韓国・中国・台湾と共同で実施した「East Asian Social Survey 2012(社会的ネットワークと社会関係資本)」、多様化する若年層の人生パターンを捉えることを目的とした「JGSS-2009ライフコース調査」とその追跡調査である「JGSS-2013ライフコース調査」を共同研究の資料の中心として、データを分析する機会を提供し、公開データの整備と共同研究の支援環境を整え、社会科学の広範な発展に貢献することを目指す。 ○ これらの共同研究を通して、日本社会の現状と変容、及び東アジアにおける日本社会の位置づけを明らかにする。 【総合的社会調査(JGSS)とは】 家族・ジェンダー、政治・政策、職業・経済・社会階層、日常生活行動等の観点から、日本人の意識や行動の実態を把握するための調査。1999年から継続的に実施し、時系列分析が可能な形でデータベースを構築。</p>
<p>関西大学 ソシオネットワーク戦略研究 機構</p>	<p>ソシオネットワーク戦略研究 拠点</p>	<p>松下 敬一 郎</p>	<p>経済政策</p>	<p>H20.10.1 ～ H25.3.31 【再認定】 H25.4.1 ～ H31.3.31</p>	<p>○ 高度情報通信技術を活用した総合的政策研究を行い、世界が直面している社会的課題解決のための学術的基盤形成を目的とする。 ○ 研究蓄積のある金融政策、社会福祉政策、政策支援ソフトウェア開発について、指定研究ユニットを設置して、データ収集・解析及びシミュレーションに基づく政策研究を推進するとともに、公募研究ユニットを開設する。 ○ 社会マイクロ・データ及び政策分析ソフトウェアを研究者に公開して、新しい社会科学の展開を目指すとともに、共同研究拠点として、我が国の人文科学及び社会科学分野の研究水準の向上と、異分野融合による新たな学問領域の創出を目指す。</p>
<p>同志社大学 赤ちゃん学研究センター</p>	<p>赤ちゃん学研究拠点</p>	<p>小西 行郎</p>	<p>小児科学 実験心理学 教育学 統計科学 発生生物学 基礎看護学</p>	<p>H28.4.1 ～ H34.3.31</p>	<p>○ 赤ちゃんを対象とした研究は、今まで医学、心理学など、様々な研究領域で行われてきた。「赤ちゃん学」はこうした研究分野を融合させ、ヒトの起点である胎児期から乳児期にかけての行動、認知、身体の発達に関する基礎的な原理を明らかにすることによって「ヒト」から「人」へとかわる発達のメカニズムを解明することを目的とする。 ○ 睡眠サイクルデータや人見知りの発達と遺伝子データなどの様々なデータを共同利用に供することにより、異分野融合研究による新たな研究メソッドを取り入れた機器の開発や測定技術の向上、さらには若手研究者への指導による人材育成を推進する。これにより、子どもの健康を守る先制医療・予防医療はもちろん、育児、保育、看護、教育などの分野への社会還元に寄与する。</p>

(ネットワーク型拠点)

大学・研究施設名	共同利用・共同研究拠点名	代表者	研究分野	認定期間	共同利用・共同研究拠点の概要
○ 東北大学 多元物質科学研究所	物質・デバイス領域共同研究拠点	村松 淳司	物質・デバイス領域	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 本拠点は、卓越した研究者群を擁する5附置研究所が、物質・デバイス領域においてネットワーク型拠点を形成することで、共同研究の強化・異分野融合・新分野創成及び世界に伍する研究者養成の実現を目的とする。5附置研究所のシナジー効果を活用し、単独拠点では達成できない複合的な共同研究網を構築することにより、学術研究及び研究者養成の中核的役割を目指す。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 本拠点は、物質・デバイス領域に関する広い研究者コミュニティの要望に応え、「一般共同研究」及び優秀な若手研究者の長期滞在共同研究を可能にするCOREラボプログラム、次世代研究者養成プログラム等の「特定共同研究」を推進する。5附置研究所の人材・装置・場所・産業界とのネットワークを活用することで、地域発イノベーションの増発、大型プロジェクトの推進、地域から世界に伍する研究者の輩出及び人材の流動化を促進し、社会の発展に貢献する。</p>
北海道大学 電子科学研究所					
東京工業大学 化学生命科学研究所					
大阪大学 産業科学研究所					
九州大学 先端物質化学研究所					
○ 東京大学 情報基盤センター	学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点	中村 宏	計算科学 計算機科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 本ネットワーク型拠点が有する計算資源と技術資産の集中的な連携・活用と、大規模情報基盤の知見を有する所属研究者との協働により、あらゆる学術領域を対象に、大規模数値計算・大規模データ処理・大容量ネットワーク・大規模情報システムなどに関する計算機科学と計算科学の両方にまたがるグランドチャレンジ型学際共同研究を推進し、学術研究の発展と我が国の学術・研究基盤の高度化と恒常的な発展に資する。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 大規模情報基盤に関する協動的かつ相補的な研究展開をめざし、幅広い専門領域の研究者の協力体制による学際的共同研究を募集する。採択課題に対して構成機関が有するスーパーコンピュータ等の計算資源の提供と、構成機関の間の緊密な連携のもと人的資源および技術資産による研究支援を行う。あわせて萌芽的基礎研究の発掘と学際的共同研究への育成も行う。これらにより大規模情報基盤を活用した異分野融合研究のさらなる推進が期待される。</p>
北海道大学 情報基盤センター					
東北大学 サイバーサイエンスセンター					
東京工業大学 学術国際情報センター					
名古屋大学 情報基盤センター					
京都大学 学術情報メディアセンター					
大阪大学 サイバーメディアセンター					
九州大学 情報基盤研究開発センター					
○ 北海道大学 北極域研究センター (連携施設) ・情報・システム研究機構 国立極地研究所 国際北極環境研究センター ・海洋研究開発機構 北極環境変動総合研究センター	北極域研究共同推進拠点	齊藤 誠一	環境学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 当該拠点は、大学の機能強化に資するための連携ネットワーク型拠点として、大学共同利用機関法人、国立研究開発法人による多様な構成とする。その多様性を生かし、近年温暖化の進行が著しい北極域における自然環境と人間活動の相互作用の解明と、その成果を踏まえた異分野連携による課題解決に資する先端的・学際的共同研究の推進を目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 公募型共同研究や研究会を通して自然科学、人文社会科学、農工等実学の学際的研究を促すことにより北極域研究者コミュニティの拡大を図ると共に、船舶・観測拠点等のインフラの利用や海外調査などの機会を提供し、異分野連携研究を促す。さらに、北極域の持続可能な利用と保全に関する新規研究分野の創出を促すと共に、これらの成果を効果的に発信し、国際的な北極域研究に関する我が国の存在感の向上を目指す。</p>
○ 東京医科歯科大学 生体材料工学研究所	生体医歯工学共同研究拠点	宮原 裕二	生体医工学 生体材料学 電子工学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 4つの研究所がネットワークを形成して研究所の機能を融合し、研究者コミュニティの異分野融合研究をサポートして生体材料、再生医療、医療用デバイス、医療システムなどの実用化を促進することを目的とする。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 中核機関である東京医科歯科大学の医学部、歯学部、それぞれの附属病院、医療イノベーション推進センター等と緊密に連携して異分野融合共同研究を推進し、生体材料、医療システムの実用化を図る。新しい学術領域である生体医歯工学分野の知見を深め、若手研究者を育成するとともに、異分野融合領域における研究、産業の国際競争力向上に寄与する。</p>
東京工業大学 未来産業技術研究所					
広島大学 ナノデバイス・バイオ融合科学研究所					
静岡大学 電子工学研究所					
○ 広島大学 原爆放射線医科学研究所	放射線災害・医科学研究拠点	松浦 伸也	放射線災害医科学 放射線影響学 放射線生物学・医科学	H28.4.1 ～ H34.3.31	<p>【目的・意義・必要性】 放射線の生物影響に関する基礎研究や緊急被ばく医療とその前臨床研究、フィールドワーク等の研究活動をネットワーク型拠点3機関が一体となって強力に推進し、放射線災害・医科学研究の学術基盤の確立と、国民への成果還元や国際社会への発信を行う。同時に、福島復興に資する学術拠点としての役割を果たす。</p> <p>【取組内容・期待される効果】 3機関の有する最先端分析機器や実験サービス、福島県内のフィールド拠点等の提供により、放射線リスク制御研究を推進するとともに、生体分子イメージング研究開発など放射線の光の側面の研究にも注力する。福島県民の健康管理や緊急被ばく医療に資するとともに、放射線防護基準や産業放射線利用指針の策定に寄与する。</p>
長崎大学 原爆後障害医療研究所					
福島県立医科大学 ふくしま国際医療科学研究センター					